

本書の構成



このマニュアルでは、サーバ監視の基本事項、ServerView Web Extension のインストールとユーザインタフェースについて説明しています。

このマニュアルはドキュメンテーションの一部であり、ドキュメンテーションは次のコンポーネントで構成されます。

- ServerView Web Extension マニュアル。インストールと基本操作について説明します。
- オンラインヘルプシステム。個々のメニューとコマンドについて詳しく説明します。
- ServerView Web Extension の情報ファイル。特に Hints ファイルには、マニュアルに収録できなかった最新情報が記載されています。
情報ファイルは、ServerView Web Extension のプログラムグループから対応するエントリをクリックすれば呼び出すことができます。

2002 年 12 月

Microsoft、Windows、Windows NT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

その他の各製品は、各社の商標、登録商標または著作物です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2002

本書の表記について



■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[→] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] + [F3] キー、[Shift] + [↑] キーなど

■ ボタンの表記

画面に表示されるボタンは、次のように [] で囲んで記述しています。

例：[OK]

■ コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
  ↑  ↑
```

↑の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

■ 本文中の表記

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。



ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。



ヘルプ

操作を間違えてしまったときの元の状態への戻しかたや、困ったときの対処方法が書いてあります。

■ 連続する操作の表記について

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「-」でつないで記述しています。

例：「スタート」をクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作



「スタート」 - 「プログラム」 - 「アクセサリ」をクリックします。

■ 画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのサーバに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

■ 製品の呼びかたについて

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記しています。

Microsoft Windows NT Server Network operating system Version 4.0 を Windows NT と表記しています。

Microsoft Windows 2000 Server operating system を Windows 2000 と表記しています。

RedHat Linux 7.2 および RedHat Linux 7.3 および Red Hat Linux Advanced Server 2.1 を Linux と表記しています。

目次

第 1 章	概要	1
1	リカバリ機能	1
2	予防保守 (PDA) 機能	1
3	モニタ機能	2
4	管理機能	2
5	S.M.A.R.T. サポート	2
6	アラームサービス連携機能	3
7	エクスポートマネージャ	3
8	リモートサービスボード	3
第 2 章	インストール	5
1	動作環境	5
2	オペレーティングシステムの構成	7
3	Web サーバのインストール	7
	IIS V3.0 のインストール	8
	IIS V4.0 のインストールと構成	9
4	ServerView Web Extension のインストール	13
	OS が Windows NT または Windows 2000 の場合のインストール	13
	OS が Linux の場合のインストール	16
	インストール終了後の設定について	20
5	ServerView Web Extension のアンインストール	26
6	Web ブラウザの構成	27
第 3 章	操作方法	29
1	ServerView Web Extension の呼び出しと終了	29
2	サーバの一覧ウィンドウ	31
3	メニュー構成	32
4	アイコンリスト	34
	サーバの一覧	34
	ServerView Web Extension	35
	Mylex の Device View ウィンドウ	35
	ネットワークインタフェースウィンドウ	36
	バスとアダプタウィンドウ	36
	その他のアイコン	37
付録	39
1	略語	39

1 概要

ServerView Web Extension には、サーバをモニタし、エラーを迅速に収集し、ボードの故障を早期発見するための全寿命期間にわたってのモニタリングなどの機能があります。

また、ServerView Web Extension は、拡張ディスク装置および無停電電源ユニットをサポートしています。

次に、ServerView Web Extension の機能について説明します。

1

1 リカバリ機能

詳細

サーバをモニタし、エラー発生時のサーバの対策を、ASR&R（自動再構成 / 再起動）を利用して指定できます。この方式では、適切なシャットダウンを開始するか、欠陥部分を自動的に使用不能にして再起動することができます。



ServerView Web Extension を使って、エラー発生時のアクションを設定することはできません。

2 予防保守（PDA）機能

予防保守（PDA）機能により、特定のサーバ部品のエラーを早期に検出できます。これにより、障害が発生する前に個々の部品を取り換えることができます。

次の部品を監視（モニタ）します。

- ファン
- CMOS バッテリ
- S.M.A.R.T. 標準をサポートする SCSI および RAID コントローラ上のハードディスクドライブ

3 モニタ機能

ServerView Web Extension のモニタ機能により、ハードウェアのインベントリ（目録）を作成し、様々なシステムパラメータをモニタできます。この機能により、次のことができます。

- インストールしたハードウェアのインベントリの作成
- サーバオペレーションの稼動時間カウンタを含むすべてのハードウェアコンポーネントのモニタ
- システムがダウンする前に、適切な通知をする全寿命期間にわたるモニタ
- 故障電源ユニットの迅速な認識
- バスシステム、プロセッサ、主記憶装置、ハードディスク（RAID ドライブを含む）、ネットワークコントローラ、およびその他の内蔵コントローラの詳細情報の取得
- 長期モニタの目的で集めた情報の記録（性能分析、エラー頻度率）
- 弊社の拡張ディスク装置のモニタ

4 管理機能

ServerView Web Extension では、次のようなシステムを提供します。

- ネットワーク上の別のサーバに SNMP 構成データを監視対象サーバから転送するデフォルトの管理システム

5 S.M.A.R.T. サポート

セルフモニタリングおよびレポーティング技術（S.M.A.R.T.）は、ハードディスクのエラーを早期に検出します。これは、S.M.A.R.T. アルゴリズムによって、実現します。このアルゴリズムは、ディスクのパラメータをモニタし、差し迫った故障を検出し、それを SCSI コントローラまたはホストに通知します。

S.M.A.R.T. の概念は、パラメータ値に基づいて、いわゆる「予測可能なエラー」だけを検出します。たとえば、突然の電源故障または機械故障による予測に反するエラーは、この方式では予期できません。

S.M.A.R.T. は、現在すべての SCSI ドライブでサポートされており、また数多くの IDE ドライブでも利用できます。

差し迫ったエラーの早期警告の効果は、主にアルゴリズムの効率と、モニタされたパラメータの数に依存します。このようなコンポーネントは、メーカ固有のもので、ハードディスクのタイプにより異なる可能性があります。

6 アラームサービス連携機能

WebExtension のインストール前に ServerView をインストールすることによって、ServerView アラームサービスとの連携機能が使用できます。

アラームサービスとの連携が有効な場合、アラームサービスがアラームを受け取った時に WebExtension のサーバの一覧ウィンドウに、アラームの状況が表示されます。また、サーバの一覧ウィンドウの [アラーム] - [サービス] メニューから、アラームサービスウィンドウを開くことが可能になります。

アラームサービスの詳細については、ServerView ユーザーズガイドを参照してください。



連携には、ServerView と WebExtension で同一の Web Server を使用する必要があります。ServerView インストール時に使用した Web サーバと同一の Web サーバに設定してインストールしてください。

7 エクスポートマネージャ

エクスポートマネージャはデータをエクスポートし、外部メディア（例：ファイル、データベース）に保存できます。

このデータはサーバで使用される、モデル名、BIOS バージョン、プロセッサタイプについての情報から構成されていて、データの編集および評価ができます。

サーバの一覧ウィンドウの [エクスポートマネージャ] メニューから、エクスポートマネージャウィンドウを開くことができますようになります。

エクスポートマネージャの詳細については、ServerView ユーザーズガイドを参照してください。

なお、エクスポートマネージャは使用 OS が Windows の場合のみ使用できます。

Linux サーバ、およびブラウザが Linux の場合は使用できません。

8 リモートサービスボード

リモートサービスボード (RSB) を使用すれば、モデムまたは LAN を介してサーバに対する SNMP アクセスおよび Web アクセスが可能になります。これにより、起動プロセスのトレースやシステムの電源の投入／切断など、さまざまな管理機能をリモートで実行できます。

サーバ一覧ウィンドウ上で、アイコンが RSB モードとなったサーバを選択すると、RSB の Web インタフェースが開き、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。

リモートサービスボードの詳細については、ServerView ユーザーズガイドを参照してください。

2 インストール

この章では、ServerView Web Extension のインストール方法とセットアップ方法、およびこれらの作業に必要な準備作業について説明します。

ServerView Web Extension で作業するには、システムとして Web サーバと Web ブラウザが必要です。これらのプログラムは、同じコンピュータでも異なるコンピュータでも実行できます。

1 動作環境

2

ServerView Web Extension が動作するのに必要なシステムの環境は次のとおりです。

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	プロセッサ	80486 以上 (Pentium 推奨)
	使用メモリ	32MB 以上 (Linux の場合は 128MB 以上)
	仮想メモリ	128MB 以上 (256MB 推奨)
	ハードディスク	空き容量が 15MB 以上 (Linux の場合は 20MB 以上)
	ディスプレイ	SVGA(800 × 600) 以上の解像度。(推奨 : 1024 × 768)
	LAN カード	必要 (オンボード LAN でも可)

インストール

サーバのシステム		動作条件
ソフトウェア	OS	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows 2000 Server Operating System ServicePack 1 以降 • Microsoft Windows 2000 Advanced Server Operating System ServicePack 1 以降 • Microsoft Windows NT Server Network Operating System Version 4.0 ServicePack 5 以降 • Microsoft Windows NT Server Enterprise Edition Version 4.00 ServicePack 6a 以降 • RedHat Linux 7.2 (kernel 2.4.7-10) C200 • RedHat Linux 7.3 (kernel 2.4.18-5) P250/F250/R450/H450 • RedHat Linux 7.3 (kernel 2.4.18-10) L250 • Red Hat Linux Advanced Server 2.1 (kernel 2.4.9-e.8enterprise) C200/P250/F250/R450/H450/L250
	Web サーバ	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Information Server V5.0 (Windows2000 Server の場合) • Microsoft Internet Information Server V3.0/4.0 (Windows NT Server 4.0 の場合) または <ul style="list-style-type: none"> • ServerView Web-Server (Apache for Win32 ベース、または Apache RedHat Linux の場合) (ServerView のインストール時に自動インストールされます)
	プロトコル	TCP/IP または簡易 TCP/IP サービスが動作していること
	サービス	SNMP(サービス及びトラップ) が動作していること
	パッケージ (RPM)	ucd-snmp (snmpd サービス)、Apache (httpd サービス)、gcc、make、byacc、rpm、gawk、openssl、mod_ssl
	Web ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> • Netscape Navigator/Communicator V4.78 以降 (6.2 以降 推奨) • Microsoft Internet Explorer V5.5 以降
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

ServerView Web Extension 管理コンソールで必要なのは、データを表示するための Web ブラウザだけです。このデータは LAN を介して、Web ブラウザをインストールしているコンピュータに転送されてから表示されます。

2 オペレーティングシステムの構成

ServerView Web Extension を正しく動作させるには、TCP/IP および SNMP サービスが必要です。コンピュータの IP アドレスは DHCP を介して割り当てることはできません。

3 Web サーバのインストール

2

インストール

WebExtension での動作には Web サーバが必要です。

Windows 版の WebExtension では Microsoft Web servers (MS Internet Information Server)、または ServerViewWeb-server(Apache for Win32 ベース) をサポートしています。

Linux 版の WebExtension では、Apache をサポートしています。

■ ServerView Web-Server

Web サーバとして ServerView Web-Server を使用する場合は、ServerView のインストール時に自動的にインストールされます。

■ MS Internet Information Server

オペレーティングシステムごとに、次の WWW サーバがサポートされています。

OS	説明
Windows NT 4.0 Server	Windows NT Server 4.0 では、Web サーバとして Internet Information Server (IIS) バージョン 3.0 と 4.0 がサポートされています。インターネット接続用のセキュリティ補助機能を利用する場合は、IIS 4.0 をインストールしてください。これには、補助機能として SSL (Secure Socket Layer) が用意されています。
Windows 2000	Windows 2000 のバージョンによっては、IIS v5.0 がプレインストールされている場合とされていない場合があります。 Windows 2000 IIS v5.0 はプレインストールされています。 Windows 2000 Advanced Server IIS v5.0 はプレインストールされています。 Windows 2000 または Windows 2000 Advanced Server を使用する場合は、IIS v5.0 がプレインストールされているかどうかを確認してください。 後で IIS v5.0 をインストールする手順は、Windows 2000 のすべてのバージョンで同じです。この手順は次のとおりです。 Windows 2000 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入し、[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[アプリケーションから追加と削除] から Windows コンポーネントを選択します。

IIS V3.0 のインストール

IIS V3.0 をインストールするには、次のものがが必要です。

- Windows NT 4.0 インストール用 CD-ROM
- Windows NT 4.0 Service Pack 3 以降



ポイント

最上位のフォルダに autorun.inf というファイルを含む CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すれば、CD-ROM からスタートアッププログラムを実行することができます。ただし、この場合は、自動スタートアップを無視してプログラムをただちに終了してください。

IIS V3.0 をインストールするには、次の手順で行います。

- 1 IIS V3.0 をインストールしようとしているシステムに、IIS V2.0 が既にインストールされているかどうかを確認します。

V2.0 がインストールされている場合は、手順 3 に進みます。
V2.0 がインストールされていない場合は、手順 2 に進みます。

2 Windows NT 4.0 インストール用 CD-ROM からプログラム inetstp.exe を実行し、Windows エクスプローラを利用して IIS V2.0 をインストールします。

inetstp.exe は、フォルダ <CD-ROM ドライブ>:\I386\INETSRV にあります。

3 Service Pack 3 をインストールします。

これにより、IIS のバージョンが自動的に V3.0 に更新されます。



ポイント

Service Pack の言語バージョンは、OS の言語バージョンと同じでなければなりません。

Windows NT 4.0 に Service Pack 3 以降がインストールされている場合、Service Pack 3 はインストールされません。よって、IIS V3.0 もインストールされません。この場合、IIS V4.0 をインストールしてください。

IIS V4.0 のインストールと構成

IIS V4.0 をインストールするには、次のものがが必要です。

- Windows NT 4.0 Option Pack CD-ROM
- Windows NT 4.0 Service Pack 3 以降



ポイント

最上位のフォルダに autorun.inf というファイルを含む CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すれば、CD-ROM からスタートアッププログラムを実行することができます。ただし、この場合は、自動スタートアップを無視してプログラムをただちに終了してください。

IIS V4.0 をインストールするには、次の手順で行います。

1 IIS V4.0 をインストールしようとしているコンピュータに、Internet Explorer (IE) V4.01 以降が既にインストールされているかどうかを確認します。

IE V4.01 以降がインストールされている場合は、手順 3 に進みます。

IE V4.01 以降がインストールされていない場合は、手順 2 に進みます。

2 Windows NT 4.0 Option Pack CD-ROM からプログラム ie4setup.exe を実行し、Windows エクスプローラを利用して IE V4.01 をインストールします。

ie4setup.exe は、フォルダ <CD-ROM ドライブ>:\Ie401\X86 にあります。

別の方法として、IE V4.01 が含まれている Windows NT 4.0 Service Pack 4 をインストールすることもできます。



ポイント

Service Pack の言語バージョンは、OS の言語バージョンと同じでなければなりません。
IE は必要に応じて、V4.01 以降をインストールしてください。

- 3 Windows NT 4.0 Option Pack CD-ROM からプログラム setup.exe を実行し、Windows エクスプローラを利用して IIS V4.0 をインストールします。



ポイント

SSL (Secure Socket Layer) 機能を使用する場合は、手順 4 に進みます。SSL を完全に使用するには、適切な認証証明書が必要です。このような証明書は、MS Certificate Server などを使用して作成することができます。この Certificate Server は Windows NT 4.0 Option Pack CD-ROM に格納されています。

ファイル setup.exe は、フォルダ <CD-ROM ドライブ>:\ にあります。標準インストールを使用する場合は、インストールプログラムの指示に従ってください。



ポイント

インストール時に、IE V4.0 より前のバージョンがコンピュータに既にインストールされていることを示すエラーメッセージが表示された場合は、インストールを終了し、手順 2 からやり直してください。

- 4 Certificate Server を IIS V4.0 の追加モジュールとしてインストールします。

この作業は、手順 3 の指示に従います。ただし、この場合は標準インストールを使用しないで、インストールプログラムのパラメータを修正し、追加コンポーネントとして Certificate Server を選択します。次にインストール指示に従ってください。

ドメイン管理者のアカウントを使用して、[コントロールパネル]-[サービス] で証明サービスを起動します。次に、サービスが正しく起動したことを確認します。確認するには、[コントロールパネル]-[サービス] で [Certificate Authority] を選択し、[スタートアップ] ボタンをクリックして、[アカウント] オプションが有効になっていることと、ドメイン管理者が入力されていることを確認します。



ポイント

コンピュータが NT ドメインに属していない場合は、アカウントを指定しないでサービスを起動してください。

- 5 認証証明書が必要な場合は、適切なプロバイダから入手します。
会社内で使用する場合は、ユーティリティルーチンを使用して認証証明書を作成することもできます。



ポイント

以下の説明はシステムによっては該当しないことがあるため、説明とは異なるステップが必要になることがあります。IIS V4.0 は Microsoft 製品であるため、以下の説明は一般的なものであり、詳細な説明ではありません。

自分で認証証明書を作成する場合は、Microsoft の Key Manager (IIS V4.0 の標準インストールの場合、ファイル keyring.exe はフォルダ <Windows インストールディレクトリ>:\system32\inetmgr にあります) などのユーティリティルーチンが必要です。

Key Manager ユーティリティルーチンは、次のメニューで検索できます。

- 1 [スタート] - [プログラム] - [Windows NT Option Pack] - [Microsoft Internet Information Server] - [インターネット サービス マネージャ] を選択して、IIS を起動します。
- 2 IIS ファイルツリーの ServerView インストールディレクトリを開きます。
このディレクトリは、Internet Information Server - <ローカルホスト名> - 既定の Web サイト - SCRIPTS の順に選択すると開くことができます。
- 3 右クリックして [プロパティ] ウィンドウを開きます。
- 4 [ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックして、[セキュリティで保護された通信] ウィンドウを開きます。
[キー マネージャ] ボタンをクリックすると、ユーティリティルーチン keyring.exe を起動できます。
- 5 [キー] - [新しいキーの作成] メニューを使用して、新しいキーを作成します。
- 6 キーの作成に成功した後、次の操作を行います。
 - 1 ポート番号を 443 に変更します。
 - 2 [編集] ボタンでこのリソースにアクセスする場合は [このリソースにアクセスする時に、セキュリティで保護されたチャネルを必要とする] オプションを有効にして、セキュリティで保護された通信を開始します。
- 7 ドメイン管理者のアカウントを使用して、[コントロールパネル] - [サービス] で証明サービスを確認します。



ポイント

コンピュータが NT ドメインに属していない場合は、アカウントを指定しないでサービスを起動できます。

- 8 サービスへの無許可のアクセスを防止するために、パスワードを割り当ててセキュリティを強化することもできます。パスワードを割り当てるには、次の手順に従います。
 - 1 [ディレクトリ セキュリティ] タブで、[匿名アクセスと認識] の [編集] ボタンをクリックします。

- 2 [基本認識] オプションを有効にします。
- 3 [編集] ボタンをクリックし、システムが属しているドメインの名前を入力します。システムがドメインに属していない場合は、ここで入力する必要はありません。

■ Apache Web-Server (Linux)

Linux 版で WebExtension を使用するには、WebServer (Apache) のインストールが必要です。

Apache がインストールされていない場合、Apache の RPM パッケージをインストールしてから、WebExtension のインストールを行ってください。

4 ServerView Web Extension のインストール

OS が Windows NT または Windows 2000 の場合のインストール

2

インストール

次の手順を実行し、ServerView Web Extension をインストールします。

1 ServerView CD-ROM から ServerView Web Extension をインストールします。

ファイル WE_SETUP.EXE は次のフォルダにあります。

<CD-ROM ドライブ>:\\$VSMANAGE\\$JAPANESE¥

2 インストールを選択します。



ポイント

インストール時に、コンピュータの名前と IP アドレスが正しいことを確認するように求めるメッセージが表示されます。これにより、複数の IP アドレス用に構成されたシステムにも正常にアクセスできるようになります。

3 Java(TM) 2 Runtime Enviroment Standard Edition のインストール

WebExtension のインストール中に Java(TM) 2 Runtime Environment、Standard Edition、v1.2.2_008 のセットアップが開始されます。手順に従ってインストールを行ってください。インストールを行わない場合、エクスポートマネージャ機能が正しく動作しません。

「セットアップ完了」ダイアログでは、「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」を選択してください。「直ちにコンピュータを再起動します。」を選択すると、Web Extension は正しくインストールされません。

ServerView Web Extension の起動方法については、「1 ServerView Web Extension の呼び出しと終了」(→ 29 ページ) を参照してください。

■ 注意

Windows 2000 で ServerView WebExtension を実行した場合に、以下のような問題が発生することがあります。

- 「Could not find <Installationpath_Html>%uid¥1¥GettingStatus」や「Error on SnmpMgrTrapListen 1062」などのメッセージが表示される。
- サーバの一覧に新しいサーバを追加できない。
- サーバの一覧が表示されていない (ハングアップのように思われる)。



ポイント

ServerView WebExtension のインストール中 (Setup.exe の実行中) は、通常 Administrator 権限を持つユーザとしてログインしています。
WebExtension 実行中は、このユーザは通常「IUSR_<computename>」になります。したがってこのユーザには、WebExtension のデータベース (たとえばサーバの一覧) や WebExtension 固有の設定ファイルを変更する権限がありません。これが上記問題の原因です。

以下に、これら問題を解決する手順を説明します。

1 [コンピュータの管理] ウィンドウを開きます。

デスクトップにおいて、[マイコンピュータ] 上で右クリックして [管理] を選択します。



ポイント

ここで新規ユーザを作成する必要はありません。ユーザ「Administrator」を使用できます。

2 以下の手順で新規ユーザを作成します。

[コンピュータの管理] の [システム ツール] から [ローカル ユーザとグループ] をクリックし、[ユーザー] 上で右クリックして [新しいユーザー] を選択します。

[新しいユーザー] ダイアログボックスが表示されます。

必要な情報を入力し、[作成] をクリックします。なお、新規ユーザは、WebExtension のインストールを行ったユーザ (つまり Administrator) と同じグループに入れる必要があります。

3 ServerView スクリプトディレクトリに新規ユーザを設定します。

[コンピュータの管理] の [サービスとアプリケーション] から [インターネット インフォメーション サービス] - [既定の Web サイト] - [scripts] - [ServerView] 上で右クリックして [プロパティ] を選択します。

[ServerView のプロパティ] ダイアログが表示されます。

4 [ディレクトリ セキュリティ] タブを選択します。

5 [匿名アクセスおよび認証コントロール] ボックスの [編集] ボタンをクリックします。

[認証方法] ダイアログが表示されます。

6 [匿名アクセス] ボックスの [編集] ボタンをクリックします。

[匿名ユーザー] ダイアログが表示されます。

7 [参照] ボタンをクリックし、ステップ 2 で作成したユーザ、または [Administrator] を選択します。

[IIS によるパスワードの管理を許可する] チェックボックスにチェックを入れます。

表示されるすべてのダイアログで [OK] または [はい] をクリックします。

上記手順で問題が解決しない場合は、以下の操作または変更を行ってください。

なお、インストール先でデフォルトを指定して ServerView WebExtension をインストールした場合は、

<Installationpath_Html> = <Drive 名>:\InetPub\WWWroot\ServerView

となります。

- 1 [スタート]をクリックし[プログラム]－[アクセサリ]－[エクスプローラ]を選択します。
- 2 エクスプローラのツリービューの部分で [<Installationpath_Html>] を開きます。
- 3 ディレクトリ [<Installationpath_Html>] 上で右クリックします。
- 4 [プロパティ]を選択すると、プロパティウィンドウが表示されます。
- 5 [セキュリティ]タブを選択します。
- 6 [名前]リストで[Everyone]を選択し、[アクセス許可]リストの[変更]と[書き込み]チェックボックスにチェックを入れます。
- 7 [適用]または[OK]ボタンをクリックします。

WebExtension には固有のファイルを修正する権限がなかったため、WebExtension の [ServerStatus] プロセスが何度か起動することがあります。

WebExtension からプロセスをなくすには、以下の処理を行ってください。

- コンピュータを再起動します。
- タスクマネージャから以下の操作を行います。

- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを押します。
[Windows のセキュリティ] ウィンドウが表示されます。
- 2 [タスク マネージャ] ボタンをクリックします。
[タスク マネージャ] ダイアログが表示されます。

- 3 [プロセス]タブを選択します。

次の手順に従って、すべての [ServerStatus.ex] プロセスを終了させます。

- 1 [ServerStatus.ex] 上で右クリックします。
- 2 [プロセスの終了]を選択します。
[警告] ダイアログが表示されます。
- 3 [はい]をクリックします。

プロセスが終了します

上記手順を繰り返して、すべての [ServerStatus.ex] プロセスを終了させます。

[ServerStatus.ex] プロセスを終了する権限を持っていない場合は、コンピュータを再起動してください。

OS が Linux の場合のインストール

1 動作環境を確認します。

「1 動作環境」(→ 5 ページ) を参照して、インストールの条件を満たしていることを確認してください。

2 パッケージ (RPM) のインストール状態を確認します。

次のコマンドを実行して、ServerView が動作するのに必要なパッケージ (RPM) のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q ucd-snmp
# rpm -q apache
# rpm -q gcc
# rpm -q make
# rpm -q byacc
# rpm -q rpm
# rpm -q gawk
# rpm -q openssl
# rpm -q mod_ssl
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名 -XX.XX-XX" が表示されます (X.XX-XX はバージョンを示します)。

インストールされていない RPM は、下記の例を参考にインストールしてください。



次の RPM インストール方法は、RedHat Linux 7.3 の CD-ROM からインストールする場合の一例です。RedHat Linux のインストール方法によっては、"エラー: 依存性の欠如:" が発生する場合があります。その場合には、エラーメッセージに従い、必要とされる RPM を先にインストールしてください。

RPM	インストール方法
ucd-snmp	RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/ucd-snmp-4.2.4-3.i386.rpm
apache	RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/mm-1.1.3-4.i386.rpm # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/apache-1.3.23-11.i386.rpm

RPM	インストール方法
gcc	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/cpp-2.96-110.i386.rpm # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/binutils-2.11.93.0.2-11.i386.rpm # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/glibc-devel-2.2.5-34.i386.rpm # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/gcc-2.96-110.i386.rpm</pre> <p>※ glibc-devel のインストールに kernel-headers が要求される場合があります。</p> <p>RedHat 7.3 の CD-ROM 内に kernel-headers は含まれていないので、RedHat 7.2 の CD-ROM や RedHat の WEB 等から kernel-headers の RPM を入手してください。</p>
make	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/make-3.79.1-8.i386.rpm</pre>
byacc	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/byacc-1.9-19.i386.rpm</pre>
vim-minimal	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/vim-minimal-6.1-2.i386.rpm</pre>
glibc	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/glibc-2.2.5-34.i686.rpm</pre>
libstdc++	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/libstdc++-2.96-110.i386.rpm</pre>
rpm	rpm パッケージ以外からインストールする必要があります。RedHat Linux の開発元へお問い合わせください。
gawk	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/gawk-3.1.0-4.i386.rpm</pre>
openssl	<p>RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。</p> <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/openssl-0.9.6b-18.i686.rpm</pre>

RPM	インストール方法
mod_ssl	RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 <pre># mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/mod_ssl-2.8.7-4.i386.rpm</pre>
kernel-source	kernel-source- 2.4.18-5.i386.rpm の入手方法については、弊社情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページでご確認ください。 http://www.fmworld.net/biz/

3 /etc/snmp/snmpd.conf のバックアップファイルを作成します。

次のコマンドを実行します。

```
# ls /etc/snmp/
snmpd.conf
```

snmpd.conf.org が存在しない場合のみ、次のコマンドを実行してください。

```
# cp /etc/snmp/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf.org
```

4 CD-ROM から /etc/snmp/snmpd.conf をコピーします。

デフォルト値を設定済みの /etc/snmp/snmpd.conf を、ServerView の CD-ROM からコピーします。次のコマンドを実行します。

RedHat Linux 7.2 (C200) および RedHat Linux 7.3 (P250/F250/R450/H450) の場合

```
# mount /mnt/cdrom/
# cp /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/RHL7X/snmpd.conf /etc/
snmp/snmpd.conf
# chmod 644 /etc/snmp/snmpd
```

RedHat Linux 7.3 (L250) および Red Hat Linux Advanced Server 2.1 (C200/P250/F250/R450/H450/L250) の場合

```
# mount /mnt/cdrom/
# cp /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/RHLAS/snmpd.conf /etc/
snmp/snmpd.conf
# chmod 644 /etc/snmp/snmpd
```

5 /etc/snmp/snmpd.conf を編集します。

/etc/snmp/snmpd.conf 内の次の項目を編集します。



注意

/etc/snmp/snmpd.conf の変更を反映するには、"/etc/rc.d/init.d/snmpd restart" コマンドを実行する必要があります。

なお、snmpd.confの詳細は、/etc/snmp/snmpd.conf内のコメントを参照してください。

項目	設定内容
com2sec	<p>com2sec 項目に下記の設定例を追加します。</p> <p>設定例：com2sec svSec default public com2sec svSec localhost public com2sec svSec xxx public</p> <p>※：xxx には以下のいずれかの設定値を代入してください。</p> <p>default：すべてのサーバ/クライアントからのアクセスを許可します。</p> <p>localhost：自サーバのみアクセスを許可します。</p> <p><IP アドレス>：特定のサーバ/クライアントからのアクセスを許可します。</p> <p><subnet>/<netmask>：特定のネットワークからのアクセスを許可します。</p>
trapsink	<p>trapsink 項目に下記の設定例を追加します。</p> <p>設定例：trapsink 127.0.0.1 public trapsink <IP アドレス> public</p> <p>SNMP トラップを送信したい IP アドレスを指定します。</p> <p>サーバ自身の IP アドレス (127.0.0.1) は既に設定されているので、改めて記述する必要はありません。</p> <p>複数装置に送信したい場合は、同じ記述で IP アドレスが異なるものを複数行記述します。</p>
syslocation	<p>syslocation 項目に下記の設定例を追加します。</p> <p>設定例：syslocation computer room L200</p> <p>コンピュータのロケーション（設置場所）を半角文字で入力します。</p> <p>ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。</p>
syscontact	<p>syscontact 項目に下記の設定例を追加します。</p> <p>設定例：syscontact Your name</p> <p>コンピュータの管理者名を半角文字で入力します。</p> <p>ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。</p>

6 RPM コマンドを実行します。

RedHat Linux 7.2 (C200) および RedHat Linux 7.3 (P250/F250/R450/H450) の場合

```
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/RHL7X/JAPANESE/WebExt/
# ./InstallWebExtension WebExtensionStarter-X.XX-XX.i386.rpm
(X.XX-XX はバージョンを示します。)
```

RedHat Linux 7.3 (L250) および Red Hat Linux Advanced Server 2.1 (C200/P250/F250/R450/H450/L250) の場合

```
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/RHLAS/JAPANESE/WebExt/
# ./InstallWebExtension WebExtensionStarter-X.XX-XX.i386.rpm
(X.XX-XX はバージョンを示します。)
```

7 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、次のコマンドを実行します。

RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q WebExtension
WebExtension-X.X-X
(X.XX-XX はバージョンを示します。)
```

8 インストール終了後の設定を行います。

「インストール終了後の設定について」(→ 20 ページ) を実施してください。

■ RPM バージョンの確認／上書きインストール

ここでは、RPM バージョンの確認、および上書きインストールについて説明します。

(1) RPM バージョンの確認

インストールされている RPM パッケージのバージョンは、次のコマンドを実行して確認できます。

```
# rpm -q WebExtension
WebExtension-X.X-X
(X.XX-XX はバージョンを示します。)
```

(2) 上書きインストール

バージョンの新しい RPM パッケージが配布された場合の上書きインストールは、スーパーユーザでログインして次のコマンドを実行して行います。

```
# ./InstallWebExtension -upgrade WebExtensionStarter-x.x-x.i386.rpm
(X.XX-XX はバージョンを示します。)
```

インストール終了後の設定について

WebExtension をインストールしたあとは、WebExtension を正しく運用できるように以下の処理を行います。また、ご使用の際には、ご使用上の留意事項をよくお読みになり、正しくご使用ください。

OS が Linux の場合、WebExtension をインストールしたあとに、サーバで以下の設定をする必要があります。

- ・ 「■ httpd サービス設定ファイルの編集」(→ 21 ページ)
- ・ 「■ SNMP サービス /httpd サービスの自動起動設定」(→ 21 ページ)
- ・ 「■ Firewall の設定」(→ 22 ページ)

■ httpd サービス設定ファイルの編集

1 /etc/httpd/conf/httpd.conf を編集します。

/etc/httpd/conf/httpd.conf 内の下記の項目を編集します（Linux インストール時に設定した HOST 名を記述します）。

```
----- httpd.conf -----
ServerName h200linux
-----
```

2 httpd サービスを再起動します。

次のコマンドを入力し、httpd サービスを再起動します。

```
# /etc/rc.d/init.d/httpd restart
```

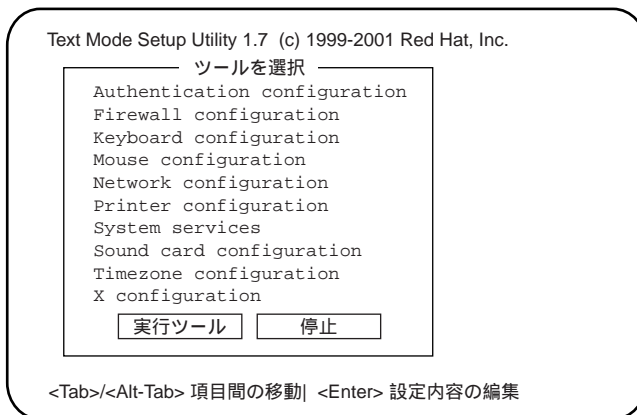
■ SNMP サービス /httpd サービスの自動起動設定

setup コマンドでサービスを有効にしていない場合、次にシステムを再起動したときにサービスを手動で起動しなければいけません。有効にしておけば、システム再起動時に自動でサービスが起動されます。setup コマンドでサービスを有効にする方法を次に示します。

1 スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/setup (setup コマンドは RedHat 専用のコマンドです)
```

メニュー画面が表示されます。



2 「System services」を選択し、[Enter] キーを押します。

サービス画面が表示されます。

ntsysv 1.2.22 - (C) 2000-2001 Red Hat, Inc.

サービス

自動的に起動させるサービスを指定してください。

[]	rusersd	a
[]	rwalld	a
[]	rwhod	a
[]	sendmail	a
[]	smb	a
[*]	snmpd	#
[*]	svrmtgt	a
[*]	sshd	a

OK 取り消し

サービスに関する詳細については、<F1>を押してください。

3 「snmpd」および「httpd」の項目に「*」印を付けます。

[↑/↓] キーで「snmpd」項目にカーソルを合わせ、[Space] キーを押します。同様に、「httpd」項目にカーソルを合わせ、[Space] キーを押します。

4 サービス画面で [Tab] キーを使って「OK」を選択し [Enter] キーを押します。次に、メニュー画面で [Tab] キーを使って「停止」を選択し [Enter] キーを押し、setup を終了します。

■ Firewall の設定

Firewall の設定は、Linux インストール時または setup コマンドで行います。

以下に setup コマンドでの設定方法を示します。

なお、Linux インストール時と setup コマンド実行時で画面が異なりますが、設定項目は同じです。Linux インストール時の設定方法については、Redhat Linux のマニュアルおよび次の設定方法を参考にしてください。



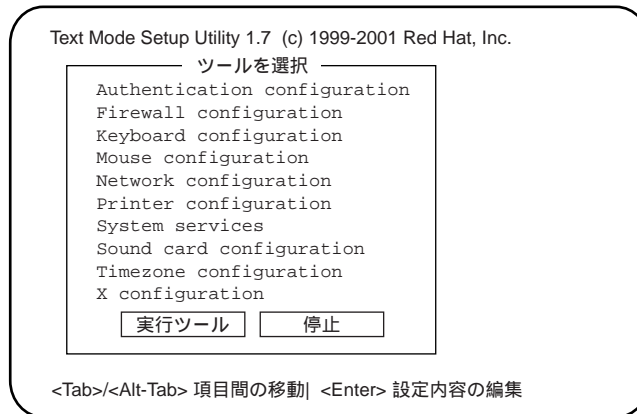
注意

以下の Firewall の設定は、ServerView の動作に必要な設定です。Firewall の設定についての詳細は、Redhat Linux のマニュアルを参照してください。

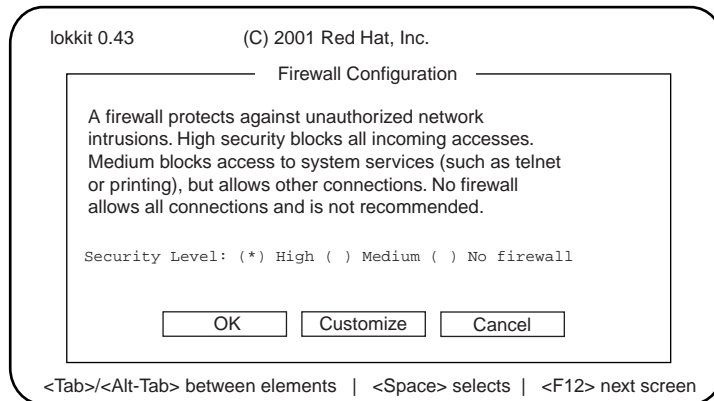
1 スーパーユーザでログインし、/usr/sbin/setup を実行します。

```
# /usr/sbin/setup
```

メニュー画面が表示されます。



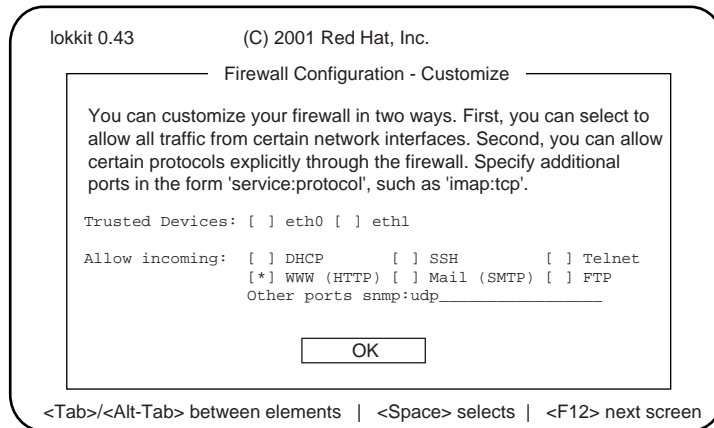
- 2 「Firewall configuration」を選択し、[Enter] キーを押します。
Firewall Configuration 画面が表示されます。



注意

ここで「No firewall」を選択した場合は、以下の設定は必要ありません。

- 3 「Security Level」を選択します。
「High」に（*）印をつけ、[Tab] キーで [Customize] を選択し、[Enter] キーを押します。
Firewall Configuration - Customize 画面が表示されます。



4 Firewall Configuration - Customize 画面で使用するプロトコルを設定します。

次の3つのプロトコルを設定します。

プロトコル	説明
http, https	WebServer を立ち上げるのに必須
snmp	snmp サービスを立ち上げるのに必須

- 1 WWW(HTTP) を選択します。
[*] 印を付けます。
- 2 Other ports に「snmp:udp https:tcp」と記述します。
- 3 [Tab] キーで [OK] ボタンを選択し、[Enter] キーを押します。



ポイント

その他の機能を有効にする場合、この Firewall を設定する必要がある場合があります。

5 setup コマンドを終了します。

Firewall Configuration 画面に戻り、[Tab] キーで [OK] ボタンを選択し、[Enter] キーを押します。

setup コマンドのメニュー画面で [停止] ボタンを選択し、[Enter] キーを押します。

6 /etc/sysconfig/ipchains を編集します。

以下の例を参照して、「:output ACCEPT」行の下に6行追加してください。

```
# Firewall configuration written by lokkit
# Manual customization of this file is not recommended.
# Note: ifup-post will punch the current nameservers
#       through the firewall; such entries will *not* be
#       listed here.
:input ACCEPT
:forward ACCEPT
:output ACCEPT
```

```
-A input -s 0/0      -d 0/0 161 -p udp      -j ACCEPT
-A input -s 0/0 161 -d 0/0      -p udp      -j ACCEPT
-A input -s 0/0      -d 0/0 161 -p tcp -y    -j ACCEPT
-A input -s 0/0 161 -d 0/0      -p tcp -y    -j ACCEPT
-A input -s 0/0      -d 0/0 162 -p udp      -j ACCEPT
-A input -s 0/0 162 -d 0/0      -p udp      -j ACCEPT
(以下略)
```

- 7 `/etc/rc.d/init.d/ipchains` をリスタートして設定を反映します。
次のコマンドを実行します。

```
# /etc/rc.d/init.d/ipchains restart
```

5 ServerView Web Extensionのアンインストール

■ OS が Windows NT または Windows 2000 の場合

次の3つの方法のいずれかを実行すると、ServerView Web Extension をアンインストールできます。

- [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] を使用する。
- [スタート] - [Fujitsu ServerView Web Extension] メニューの項目 [Uninstall ServerView WebExtension] を使用する。
- インストールプログラムを起動し、[アンインストール] オプションを使用する。

■ OS が Linux の場合

アンインストールは、スーパーユーザでログインして次のコマンドを実行して行います。

```
# rpm -e WebExtension
```


6 Web ブラウザの構成

ServerView Web Extension 管理コンソールで必要なのは、データを表示するための Web ブラウザだけです。つまり、Web ブラウザを実行している別のコンピュータに LAN を介してデータを転送し、Web ブラウザで表示することができます。HTML V3.2 と Javascript V1.1 を解釈できるブラウザであれば、どのブラウザでも使用できます。

ブラウザで次の設定のいずれかを行う必要があります。

- ブラウザでプロキシを使用するためのアクセスオプションをすべて無効にします。
- Web サーバを実行しているホストでプロキシを使用しないように指定するために、適切な場所で IP アドレスを入力します。

ServerView Web Extension には GUI（グラフィカルユーザインタフェース）が備えられており、操作が簡単です。

メニューとウィンドウの操作はグラフィカルユーザインタフェースの従来の規格に準拠しているため、ここでは詳しく説明しません。

ServerView Web Extension では、できるだけ既定の値と設定を使用します。これらの既定の設定をサーバ間で簡単にコピーできます。

また、ServerView Web Extension には広範なヘルプシステムも備えられています。

1 ServerView Web Extensionの呼び出しと終了

開始 URL として次いずれかのアドレスを利用すると、Web ブラウザを介して ServerView Web Extension を呼び出すことができます。

IIS を使用している場合

- `http://<サーバ名>/ServerView/`
- `http://<サーバの IP アドレス>/ServerView/`
- `http://<サーバ名>/sv_www.html`
- `http://<サーバの IP アドレス>/sv_www.html`

ServerView Web-Server を使用している場合（通常の接続）

- `http://<サーバ名>:3169/ServerView/`
- `http://<サーバの IP アドレス>:3169/ServerView/`
- `http://<サーバ名>:3169/sv_www.html`
- `http://<サーバの IP アドレス>:3169/sv_www.html`

ServerView Web-Server を使用している場合（SSL 接続）

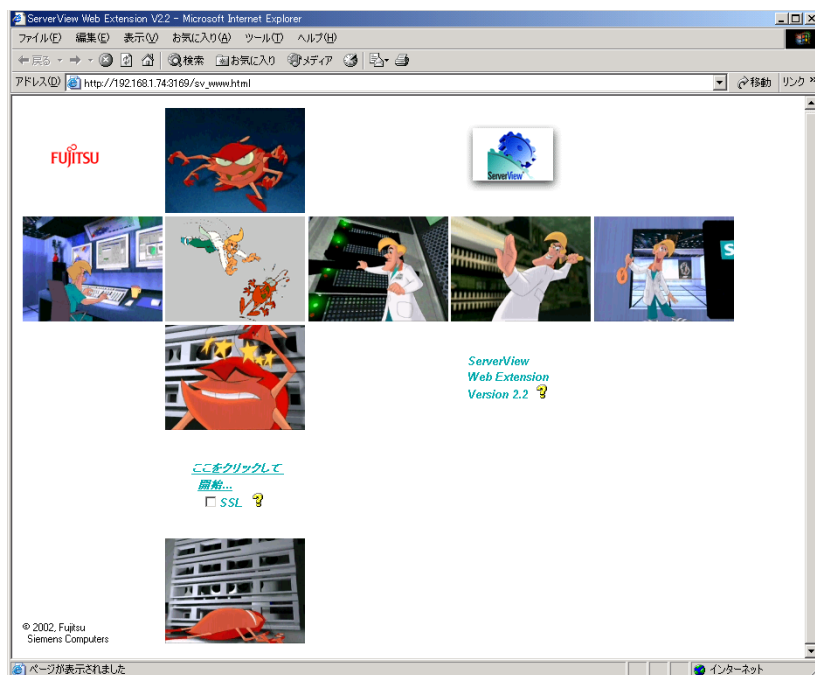
- `https://<サーバ名>:3170/ServerView/`
- `https://<サーバの IP アドレス>:3170/ServerView/`
- `https://<サーバ名>:3170/sv_www.html`
- `https://<サーバの IP アドレス>:3170/sv_www.html`

Linux 上に WebExtension をインストールした場合

- `http://<サーバ名>/ServerView/`
- `http://<サーバの IP アドレス>/ServerView/`
- `http://<サーバ名>/sv_www.html`
- `http://<サーバの IP アドレス>/sv_www.html`

⚠ 注意

- ServerView で SSL を有効にした場合、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになります。また、接続時に認証が要求されるようになります。
- 認証に使用するユーザ名とパスワードは、デフォルトでユーザ名「svuser」、パスワード「fsc」に設定されています。
- ServerView Web-Server で SSL 接続をする場合、上記の TOP ページの URL を入力する必要があります。TOP ページに応じて、適切な SSL チェックボックスを選択してください。

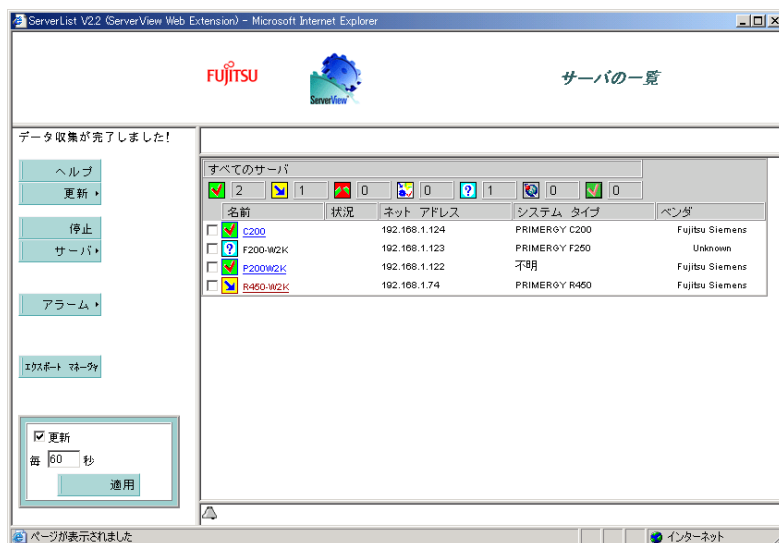


サーバの一覧ウィンドウを開くには、[ここをクリックして開始]オブジェクトをクリックします。この操作で、サーバの一覧ウィンドウが表示されます。

ServerView Web Extension を終了するには、サーバの一覧ウィンドウのメニュー項目 [停止] を選択し、ブラウザをシャットダウンします。

2 サーバの一覧ウィンドウ

サーバの一覧ウィンドウは、ServerView Web Extension の「メイン」ウィンドウです。



サーバの一覧ウィンドウには、すべての設定済みオブジェクトとユーザ定義グループの概要が表示されます。

サーバの一覧ウィンドウは、次の2つの領域に分割されています。

- 左側には、ファイルツリー形式でメニューが表示されます。
- 右側には、監視サーバが表示されます。

画面の右側のパネルには、次の情報が表示されます。

- すべてのサーバのステータス概要バー
- すべてのサーバのリスト

一覧にあるサーバをクリックすると、次の情報が表示されます。

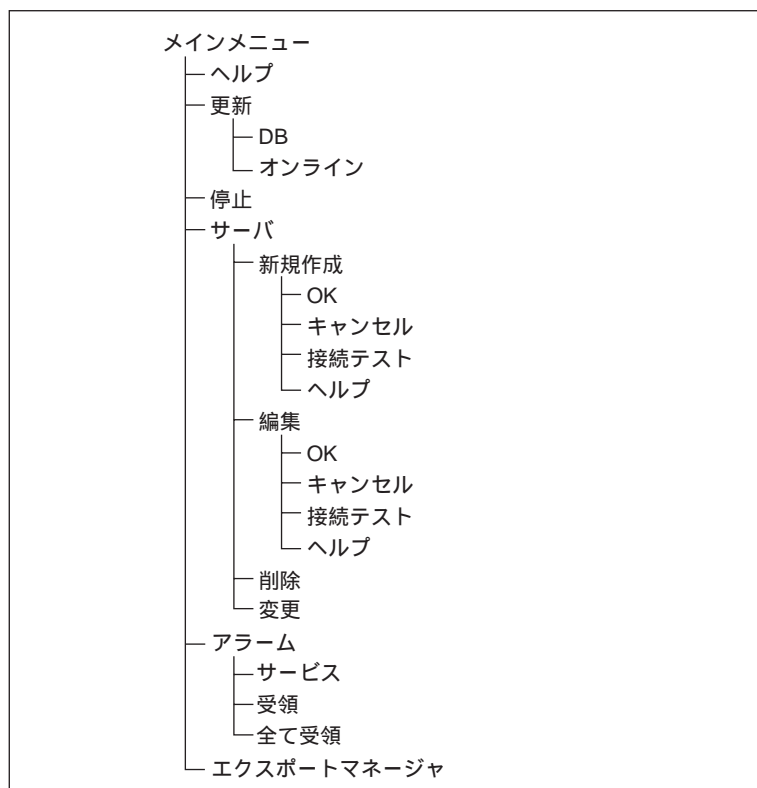
- 対応するサーバの名前、モデル、ステータス
- ファイルツリー形式のメニューで選択されたサーバ情報およびそのタイトルバー

サーバの一覧ウィンドウに関する詳細は、ヘルプテキストを参照してください。

3 メニュー構成

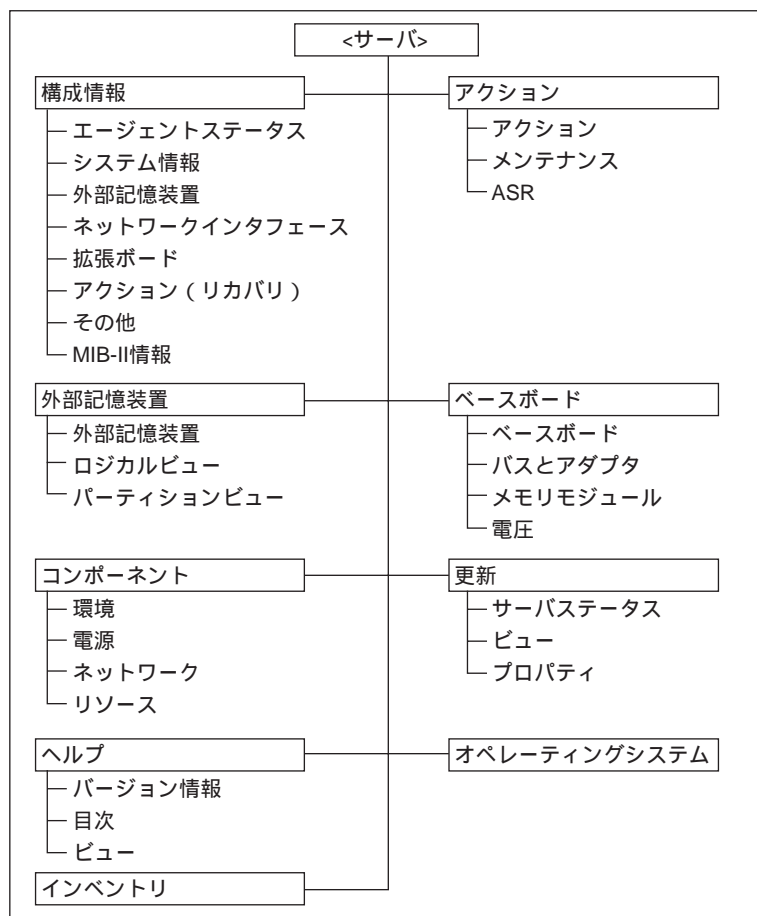
この節では、サーバの一覧ウィンドウに表示されるメニューの構成と機能について説明します。

メインメニューの構成は次のとおりです。



各メニュー項目の意味と機能の詳細は、対応するヘルプテキストを参照してください。

任意のサーバを1台選択すると、次のメニュー項目が表示されます。












各メニュー項目の意味と機能の詳細は、対応するヘルプテキストを参照してください。

4 アイコンリスト

アイコンは、1つまたは複数のオブジェクトのステータスやその変化が一目で分かるように表されています。



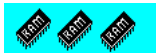






サーバの一覧

サーバの一覧ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	OK。すべてのコンポーネントは OK。
	エラー。1つまたは1つ以上のコンポーネントでエラーが発生。
	ステータスが悪化。1つまたは1つ以上のコンポーネントのステータスが悪化。
	管理不可能。コンポーネントのステータスを特定できない。
	調査ステータス。調査プロセス中の未定義のステータス。
	不明。サーバにアクセスできない。
	RSB モード。管理不能。ただし、RSB エージェントは対応可能。
	ASM Pro Station。ASM Pro Station が応答している。
	標準 SNMP。OK。ServerView のエージェントは応答しないが、標準 - SNMP が応答している。

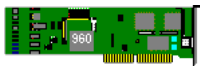

ServerView Web Extension

ServerView Web Extension メニューに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	メンテナンス バッテリーのサポート
	ASR: 自動サーバ再構成 自動サーバ検索
	メモリモジュール
	温度（赤色：危険、緑色：稼働中、黄色：スタンバイ状態、青色：センサが故障、灰色：不明）
	ファン（赤色：故障、緑色：稼働中、黄色：スタンバイ状態、青色：不明）
	サーバのドアが閉じられている
	サーバのドアが開いている
	サーバのケースが閉じられている
	サーバのケースが開いている

Mylex の Device View ウィンドウ

Device View ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	Mylex コントローラ
	ホスト




ネットワークインタフェースウィンドウ

ネットワークインタフェースウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	イーサネットネットワークカード
	ファストイーサネットネットワークカード
	イーサネットネットワークカード (複数のネットワーク接続、マルチポート)
	ファーストイーサネットネットワークカード (複数のネットワーク接続、マルチポート)
	トークンリングネットワークカード
	FDDI ネットワークカード
	統計情報の入力
	統計情報の出力

















バスとアダプタウィンドウ

バスとアダプタウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	選択レベルの分岐が開いている
	選択レベルの分岐が閉じられている
	最低位置の選択レベル、これ以上選択できない

その他のアイコン

特定のウィンドウに対応付けられないアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	CD-ROM（赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明）
	通信デバイス（赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明）
	CPU（赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明）
	ジュークボックス、自動 CD-ROM チェンジャ（赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明）
	MOD（赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明）
	プリンタ（赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明）
	スキャナ（赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明）
	テープドライブ装置（赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明）
	WORM 装置（Write Once Read Many）（赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明）
	ハードディスク ハードディスク（赤色：故障、緑色：OK）
	不明デバイス（赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明）
	初期設定、環境 [< サーバ>]、または電源 [< サーバ>]
	ネットワーク関連のすべてのウィンドウ： ネットワークインタフェース [<Server>]、トークンリング 統計情報 [<Server>]、イーサネット MAC 統計情報 [<Server>]、FDDI MAC 統計情報 [<Server>]
	外部記憶装置関連のすべてのウィンドウ： 外部記憶装置 [<Server>]、デバイスの表示 [<Server>]、外部記憶装置：パーティションビュー [<Server>]、外部記憶装置：ロジカルビュー [<Server>]、 Mylex ディスクアレイウィンドウ： デバイスビュー [<Server>]、アダプタビュー [<Server>]、物理デバイスビュー [<Server>]
	システム情報（特に、OS）
	ベースボード [<Server>]

1 略語

略語	意味
ASR&R	自動再構成／自動再起動 (Automatic Server Reconfiguration and Restart)
CIM	Common Information Model
CIMOM	CIM Object Manager
CSMA/CD	Carrier sense multiple access with collision avoidance
DCOM	Distributed Component Object Model
DI	Device Interface
DMI	Desktop Management Initiative
DMTF	Distributed Management Task Force
DTD	Document Type Definition
GUI	Graphical User Interface
HTML	Hypertext Markup Language
HTTP	Hypertext Transport Protocol
IT	Information Technology
LAN	ローカルエリアネットワーク (Local Area Network)
MI	Management Interface
MIB	Management Information Base
MIF	Management Information Format
MMC	Microsoft Management Console
MOF	Management Object File
OS	オペレーティングシステム (Operating System)
PDA	予防保守 (Prefailure Detection and Analysis)
SGML	Standardized Generalized Markup Language
SMS	Short Message System
SNMP	簡易ネットワーク管理プロトコル (Simple Network Management Protocol)
SSL	Secure Socket Layer
UML	Unified Modelling Language
WAN	広域ネットワーク (Wide Area Network)
WBEM	Web-based Enterprise Management
WDM	Windows Driver Model
WMI	Windows Management Instrumentation
XML	eXtensible Markup Language
XSL	eXtensible Style Language

索引

あ

アイコンリスト 34
アイコン (サーバー一覧) 34
アイコン (その他) 37
アイコン (ネットワークインタフェースウィ
ンドウ) 36
アイコン (バスとアダプタウィンドウ) 36
アイコン (Mylex の Device View ウィンドウ)
..... 35
アイコン (ServerView Web Extension) . 35
アンインストール 26

い

インストール 5, 13

か

管理機能 2

さ

サーバの一覧ウィンドウ 31

と

動作環境 5

め

メインメニュー 32

も

モニタ機能 2

よ

予防保守 (PDA) 機能 1

り

リカバリ機能 1
略語 39

A

ASR&R 1

F

Firewall の設定 22

H

httpd サービスの自動起動設定 21
httpd サービス設定ファイルの編集 21

I

IIS 8
IIS V3.0 のインストール 8
IIS V4.0 のインストール 9
Internet Information Server 8

R

RPM の上書きインストール 20
RPM バージョンの確認 20

S

S.M.A.R.T. 2
ServerView Web Extension の終了 30

ServerView Web Extension の呼び出し ..	29
ServerView Web-Server	7
SNMP サービスの自動起動設定	21

W

Web サーバのインストール	7
Web ブラウザの構成	27

ServerView WebExtension V2.2

ユーザーズガイド
B7FH-1371-02 Z0-00

発行日 2002 年 12 月
発行責任 富士通株式会社

-
- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
 - 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
 - 無断転載を禁じます。